

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 2 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500133		
法人名	医療法人社団住吉医院		
事業所名	グループホーム ちゅうりっぷ		
所在地	広島県呉市川尻町東3丁目8番5号 (電話) 0823-70-5700		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490500133-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 4 年 2 月 15 日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を念頭に置き安心していただける介護を目指しています。家庭的な雰囲気作りと、優しさと、思いやりの心を持ち、生活支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームちゅうりっぷは、職員は、事業所の理念「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を念頭に置き、利用者一人ひとりの立場に立ち、どのような生活が一番ふさわしいのかを考えながら、日々のケアに努めている。職員は、家族との関係を大切にし、利用者の担当職員を中心に、毎月、写真と一緒に利用者の生活状況を手紙に書いて送付している。コロナ禍で外出支援が制限される中で、レクリエーションでは、利用者の趣味や得意な事に合わせたプログラムや、皆で一緒に楽しむ壁画作り等、お一人おひとりが張り合いや喜び、気分転換のある毎日であるよう、職員間で話し合って実施している。日々の関わりの中で、利用者が笑ったり、話が盛り上がった場面等、言葉や行動、表情、職員の対応等を記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」という基本理念を掲示し、毎朝唱和し実行し共有に努めている。	事業所理念「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を事務所に掲示し、毎朝、朝礼で職員皆で唱和している。管理者は、日々のケアの中で折に触れて、理念を思い返してケアに取り組むように職員に伝えており、職員も理念を共有して、日々のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	年2回の町内清掃、散歩、買い物等を通し地域と交流できるように努めている。	自治会に加入し、自治会報や回覧板を通して地域行事を把握している。コロナ禍の為、地域行事は中止となり、事業所でも地域の人が参加出来る行事は実施していない。近隣の清掃は、利用者も一緒に引き続き行っている。利用者は、近隣のドラッグストアや商店に、バナナや二重焼き等の買い物に出かけ、地域の一員として交流している。	新型コロナウイルス感染予防の為、地域の行事や法人事業所本体の行事や事業所での開催行事が中止となって、地域との交流が少なくなっているため、コロナ禍が終息した折には、従来通りの交流が出来る様に、準備して頂く事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や見学等の希望があれば受け入れ、理解をしていただくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催し、活動報告、意見交換を行っている。地域住民、包括職員、市担当職員等の情報、助言、意見を受けている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・家族・利用者・民生委員・副統括責任者、計画作成担当者・職員で開催し、利用者状況、行事報告、活動報告、事故報告、研修報告、自己評価について報告をして、意見交換していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、中止して職員で自主開催をしている。開催した議事録(行事・イベントの報告等)を、各参加者に送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の参加依頼、会議の報告を行い不明な点があれば電話、訪問で相談している	市担当者とは、電話や直接出向いて介護保険等の相談、事故報告の相談や情報交換を行う等、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話で入居の相談を受けたり、情報交換を行う等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロをめざす」のマニュアルを通じ全職員が理解し身体拘束を未然に防ぐための取り組みとし事例を通し3カ月に1回会議を実施している。	3ヶ月毎に実施している職員で構成する「身体拘束適正化検討委員会」の事例を通して学び、身体拘束、高齢者虐待の内容と弊害について、正しく理解している。スピーチロックがあれば、管理者が指導している。玄関は、安全の為に施錠しているが、外出したい利用があれば、職員と一緒に周辺の散歩に出かける等して、気分転換を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法(高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律)の意義に対する理解を深め、その定義、責務について勉強会をしている。		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について外部研修に参加し資料等で制度について理解している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に見学、入所申し込み時点で必要な時間をかけ十分に説明を行い、ご本人の思い、家族の希望を聞き、文章により同意と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様、ご家族に意見や要望を伺えるように声かけを行っている。	面会時や電話で、家族から意見や要望を聞いている。毎月発行している「ガーデン新聞」を、家族に送付している。又、2週間に1回、電話やラインアプリで、利用者の生活状況や訪問診療の様子を報告し、意見や要望が出やすい様工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開催している。職員の意見や要望、提案を取り入れるようにしている。	管理者は、毎月のミーティング、朝夕の申し送り時に職員の意見や要望を聞いている他、日常業務の中でも聞いている。出た意見や要望は、会議で検討して、反映させている。職員からの提案を受けて、業務の時間帯を変更する等、その都度検討して、意見を反映させている。院長にアンケートを出す、薄謝が出る事で意見を言い易い様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を導入し、個々のレベルにあった給料水準を決定する仕組みとなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの力量を把握し、新人職員には先輩職員が働きながら各利用者にあったケアの実践をトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流はあるが同業者との交流の機会が作られていない。サービスの向上のためにも同業者の交流を進めていきたいと考えている。		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設見学、申し込み時にアセスメントを実施し不安なこと、困ったことを聞くよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学、申し込み時にアセスメントを実施し不安なこと、困ったことを聞くよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを実施し、必要に応じて問題点がある場合には適切にサービスが行えるよう心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯、掃除、食器洗い等の家事を本人の状況に応じて一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様のみではなく、ご家族の生活に対しても総合的な支援となるよう心がけている。離れて暮らしているご家族に対しての心情の共感をもとにケアが行えるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、友人、知人が気軽に訪問していただけるように配慮している。	家族の面会は、コロナ禍で面会制限がある中、感染防止対策を徹底して、玄関先や窓越しで実施している。近所のドラッグストアや商店で、バナナや二重焼きを買いに出かけたり、近くの美容院に髪を整えに出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を把握し一緒に過ごすテーブルの席替えを行ったり、作品作り、行事の参加で利用者様同士の関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても困ったことがあれば何時でも気軽に相談してくださいと伝えている。		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや暮らしの要望を、喜怒哀楽表現や本人の言葉、家族からの声を通じて情報を得ている。	入居時に、アセスメントシート(私の基本情報、私の療養、私の支援、私の家族、私の生活史)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動、言葉、家族やスタッフの言葉、感じている事等を介護記録に記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族から聞き取り、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	上記の加え、ご家族、これまで利用したサービス機関からの情報提供依頼を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の観察と記録、申し送りをを行い、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族の意向要望を聞き、カンファレンスにて検討し、介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に、月1回、ケアカンファレンスを開催し、利用者や家族の要望、主治医、看護師、管理者・職員の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しを実施している。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を作成し、情報共有に努め介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様本位の生活、ご家族の状況に合わせて柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域生活の継続性という視点から、緊急時の連絡体制などを補うことを目的とし、近隣住民や民生委員、地域包括センターなどに必要な相談、連携を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者様、ご家族の希望や経緯を最優先とし、これまで受診されたかかりつけ医が継続受診できるように支援を行っている	事業所の協力医療機関の他、本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。受診結果は、家族には電話や面会時に伝え、職員には連絡ノートに記入し、申し送り時に報告している。看護師が、毎日法人本体から健康チェックに来ている。希望者は、訪問歯科を利用している。他科(眼科)は、家族対応と職員も対応している。緊急時や休日夜間には、管理者から協力医療機関に連絡し、指示を仰いで、適切な医療を受けられるよう支援している。	

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェックをもとに体調変化(発熱、排泄、その他)がある場合、速やかに医療機関に連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を通して入退院時に関わる相談、手続き必要情報の交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	担当者会議及びその他の相談をもとに利用者様、ご家族の意見が最大限尊重されるように努めている	契約時に、「看取りに関する指針」を基に、事業所が出来る対応について家族に説明している。同意書は、入所時に取り交わしている。実際に重度化した場合は、早い段階から、家族の意向を聞いて、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決め、職員で共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ヒヤリハット事例やアクシデント報告を通し緊急時及び事故発生時の対応及び連絡経緯の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力指導により年2回避難訓練を行っている	年2回、避難訓練を実施しており、内1回は消防署の協力の下、昼夜間の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練、避難経路の確認を行い、土砂災害を想定した避難訓練も合わせて実施している。訓練は、利用者も一緒に行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人理念を唱和することにより職員一人ひとり常に心がけるよう努めている	職員は法人研修や内部研修(接遇、プライバシー保護)で学ぶと共に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いで対応をしている。個人記録は、適切に保管し、守秘義務は遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様が意思表示や自己決定が行いやすいよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様に希望を聞きペースにあった過ごし方をいただいている		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の選択等ご本人に選択していただいている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その時の体調を考慮し、片付け等は職員と一緒にやっている。	食事は、3食とも食材業者に依頼している。ごはんは、事業所で炊いている。利用者の状態に合わせて、食べ易い形態(刻む、とろみ、おかゆ等)や、盛り付けの工夫、自助具の利用をし、時には利用者の食べたい物を聞いて対応したりして、楽しい食事となるように支援している。ラーメン・寿司・焼うどん・パン食等、利用者の希望をかなえられるように支援している。おやつは、ホットケーキにクリーム・果物をトッピングしたり、おはぎを作ったりして楽しませている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量等の管理・記録を行っている。水分の少ない方には声かけを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声掛け、できない方にはブラシや専用スポンジ等で職員が行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の訴えがある時や、時間毎に誘導の声かけを行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけやトイレへの誘導をして、排泄の自立が出来るよう支援している。プライバシーに配慮した言葉かけや対応をして、利用者のサインを見逃さず、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や散歩を取り入れる。又嗜好に応じて牛乳等を摂取していただいている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の合意のもと入浴のタイミングを決定している。	入浴は週3回で、入浴の順番や湯加減に配慮して、入浴が楽しめるように支援している。利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴を行っている。入浴剤を使用して、気分転換や季節感を感じられるように工夫している。入浴したくない利用者には、無理強いしないで、職員の交代や時間の変更、声かけの工夫をして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活リズムに合わせて、自由に休息していただいている			

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療スタッフ及び薬局との連携のもと、症状や服薬管理、薬剤形状を検討している。またそれぞれが服薬している薬剤情報をファイルし、その確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や嗜好にそってそれぞれが目標をもてるようおやつ作り、手作業を取り入れている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜や紅葉等、季節を感じられるよう外出の機会を企画している。利用者様の希望により近所の商店に買い物、散歩に行っている。	施設周辺を散歩したり、ドラッグストアに日用品(歯磨き粉)、商店にバナナや二重焼きを買いに出かけている。近くの美容院に、髪を整えに出かけて、地域の方と交流している。近くの桜を花見に出かけたりして、日光浴・外気浴を行って気分転換を行っている。又、地域の清掃に利用者も参加して、外出の機会を支援している。又、ベランダへ洗濯物を干す機会があり、日光浴・外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望により日用品等、近所の商店に買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時希望に応じて、電話等の方法で家族とのやり取りができるよう体制をとっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	移動動線上の安全確保をするために廊下に物を置かないようにしている。季節を感じる作品等の掲示を行っている。室温はいつも気をつけている。	共用空間は広く、ゆったりとしたソファーに腰掛けてテレビを見たり、食卓の椅子やソファ等、思い思いの場所に座って会話を楽しんでいる。台所からは、調理の音や匂いがして、生活感を感じる事が出来る。壁面には、利用者と職員が一緒に作った季節の飾り物や、活動写真、紙細工の作品が飾ってある。室内の温度や湿度、換気、清潔に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由な形で利用できる量の間(スペース)を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた物等を使用してもらい、居室内の配置はご本人やご家族の希望に応じて行っている。	テレビ、時計、寝具、衣装ケース、衣装スタンド、机、椅子、本や雑誌、鏡、整容道具等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、誕生日の色紙や自作品を飾っている。家具のレイアウトや、生活動線、収納方法を工夫して、安心して本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	



グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体状況に合わせて、利用する部屋の配置を行い、無理のない生活上の移動が行えるようにし、危険リスクを軽減することに努めている。場所が分かりやすいように、目的に応じてトイレや浴室には掲示をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ちゅうりっぷ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ちゅうりっぷ

作成日 令和 4 年 2 月 16 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合いが十分ではない。	近隣、地域の方との接点をつくる。	地域の方との挨拶の継続。散歩等を通し交流を深めていく。	2年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。